

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMABAM3126-J1
授業科目名	生体と薬物		
担当教員氏名	<p>【基礎】◎富田修平（分子病態薬理学）、松永慎司（分子病態薬理学）、本間拓二郎（分子病態薬理学）、徳留健太郎（分子病態薬理学）、大野行弘（大阪医科薬科大学）、寒川慶一（同源院薬局）、塩田正之（分子制御生物学）、高橋克之（近畿大学）、立石千晴（健康・医療イノベーション学）、西村有平（三重大学）、山口雄大（国立感染症研究所）、柳田俊彦（宮崎大学）</p> <p>【臨床】浅井一久（呼吸器内科学）、泉康雄（高石病院）、繪本正憲（代謝内分泌病態内科学・腎臓病態内科学）、庄司哲雄（血管病態制御学）、平良高一（消化器内科学）、武田憲彦（自治医科大学）、長沼俊秀（泌尿器病態学）、光岡茂樹（臨床腫瘍学）、森隆（麻酔科学）</p>		
開講年度・学期	2023	曜日・時限	その他
授業形態	混合		
科目分類			
配当年次	3年	単位数	

※水平垂直講義を実施しています

【シラバス情報】

授業概要	これまでに学習した解剖学、生理学、生化学などの知識を基盤にして、薬と生体との相互作用をもとに薬物治療に必要な基本的事項や概念を学習する。さらに、薬物の創薬から臨床治験と臨床応用されたときの問題点まで広く学習する。
到達目標	<p>薬物・毒物の生体への作用について、個体・細胞・分子のレベルにおける作用機序と、生体と薬物分子との相互作用を理解し、的確な薬物療法を行うための基本（考え方、薬理作用、副作用）を学ぶ。</p> <p>【薬理作用の基本について】</p> <ul style="list-style-type: none"> □薬物・毒物の濃度反応曲線を描き、その決定因子を説明できる。 □薬物の受容体結合と薬理作用との定量的関連性および活性薬・拮抗薬と分子標的薬を説明できる。 □薬物・毒物の用量反応曲線を描き、有効量・中毒量・致死量の関係を説明できる。 <p>【薬物の動態について】</p> <ul style="list-style-type: none"> □薬物・毒物の吸収、分布、代謝と排泄を説明できる。 □薬物の生体膜通過に影響する因子を説明できる。 □薬物投与方法を列挙し、それぞれの薬物動態を説明できる。 □年齢や臓器障害などに応じた薬物動態の特徴を説明できる。 □薬物動態的相互作用について例を挙げて説明できる。 <p>【薬物の評価について】</p> <ul style="list-style-type: none"> □薬物の評価におけるプラセボ効果の意義を説明できる。 <p>【薬物治療の基本について】</p> <ul style="list-style-type: none"> □中枢神経作用薬、自律神経作用薬、循環器作用薬、呼吸器作用薬、消化器作用薬、利尿薬、ステロイド薬および非ステロイド性抗炎症薬、抗腫瘍薬の薬理作用を説明できる。 □漢方医学の特徴や和漢薬（漢方薬）使用の現状について概説できる。 □薬物の蓄積、耐性、タキフィラキシー、依存、習慣性や嗜癖を説明できる。 □主な薬物の有害作用（副作用）を概説できる。 □主な薬物アレルギーを列挙できる。

授業回	各回の授業内容	アクティブラーニング	事前・事後学習の内容
第1回	1/10・1限 富田 修平 総論 基本原理	1	受講するに当たり、必ず推奨テキストを使って事前に内容を確認し授業に臨むこと。また、講義内容について必要に応じてMoodleでの小テストを実施する。各自講義の要点をまとめるなど、準備を欠かさないようにすること。
第2回	1/10・2限 塩田 正之 受容体と薬物1	1	
第3回	1/10・3限 塩田 正之 受容体と薬物2	1	
第4回	1/11・1限 富田 修平 薬物の吸収と分布	1	
第5回	1/11・2限 富田 修平 薬物の代謝と排泄	1	
第6回	1/11・3限 富田 修平 薬物動態学	1	
第7回	1/18・1限 松永 慎司 薬物の有害作用	1	

第 8 回	1/18・2 限	西村 有平	個体差・薬理ゲノミクス・個別化医療 1	1	<p>受講するに当たり、必ず推奨テキストを使って事前に内容を確認し授業に臨むこと。また、授業のはじめに前回の講義内容について必要に応じて小テストを実施する。各自講義の要点をまとめるなど、準備を欠かさないようにすること。</p>
第 9 回	1/18・3 限	西村 有平	個体差・薬理ゲノミクス・個別化医療 2	1	
第 10 回	1/24・1 限	富田 修平	末梢神経系に作用する薬物 ケミカルメディエーターと自律神経系	1	
第 11 回	1/24・2 限	富田 修平	末梢神経系に作用する薬物 ノルアドレナリン作動性神経伝達 1	1	
第 12 回	1/24・3 限	富田 修平	末梢神経系に作用する薬物 ノルアドレナリン作動性神経伝達 2	1	
第 13 回	1/25・4 限	富田 修平	末梢神経系に作用する薬物 アセチルコリン性伝達 1	1	
第 14 回	1/25・5 限	富田 修平	末梢神経系に作用する薬物 アセチルコリン性伝達 2	1	
第 15 回	1/31・1 限	富田 修平	腎臓作用薬 1	1	
第 16 回	1/31・2 限	富田 修平	腎臓作用薬 2	1	
第 17 回	1/31・3 限	立石 千晴	治験・臨床試験	1	
第 18 回	2/3・4 限	富田 修平	泌尿器系に作用する薬物	1	
第 19 回	2/3・5 限	泉 康雄	虚血性心疾患治療薬	1	
第 20 回	2/3・6 限	泉 康雄	心不全治療薬	1	
第 21 回	2/7・1 限	松永 慎司	生理活性ペプチドなど	1	
第 22 回	2/7・2 限	大野 行弘	中枢神経作用薬 1	1	
第 23 回	2/7・3 限	大野 行弘	中枢神経作用薬 2	1	
第 24 回	2/7・4 限	浅井 一久	呼吸器に作用する薬物	1	
第 25 回	2/7・5 限	武田 憲彦	降圧薬	1	
第 26 回	2/7・6 限	武田 憲彦	抗不整脈薬	1	
第 27 回	2/8・1 限	富田 修平	血液作用薬	1	
第 28 回	2/8・2 限	大野 行弘	中枢神経作用薬 3	1	
第 29 回	2/8・3 限	大野 行弘	中枢神経作用薬 4	1	
第 30 回	2/9・1 限	森 隆	全身麻酔薬と局所麻酔薬 1	1	
第 31 回	2/9・2 限	森 隆	全身麻酔薬と局所麻酔薬 2	1	
第 32 回	2/13・2 限	寒川 慶一	和漢薬 1	1	
第 33 回	2/13・3 限	寒川 慶一	和漢薬 2	1	
第 34 回	2/14・2 限	大野 行弘	中枢神経作用薬 5	1	
第 35 回	2/14・3 限	大野 行弘	中枢神経作用薬 6	1	
第 36 回	2/15・4 限	繪本 正憲	糖尿病治療薬	1	
第 37 回	3/29・2、3 限	富田 修平	試験（前期）	0	
第 38 回	4/5・1 限	高橋 克之	抗炎症薬と鎮痛薬 1	1	
第 39 回	4/5・2 限	高橋 克之	抗炎症薬と鎮痛薬 2	1	
第 40 回	4/5・3 限	長沼 俊秀	腎移植における免疫抑制薬	1	
第 41 回	4/18・4 限	平良 高一	消化器疾患治療薬	1	
第 42 回	4/25・4 限	本間 拓二郎	生体アミンなど 1	1	
第 43 回	4/25・5 限	本間 拓二郎	生体アミンなど 2	1	
第 44 回	4/25・6 限	庄司 哲雄	脂質異常症治療薬	1	
第 45 回	4/26・4 限	徳留 健太郎	骨代謝およびプリン代謝関連治療薬	1	
第 46 回	4/26・5 限	光岡 茂樹	抗腫瘍薬・分子標的薬・支持療法	1	

第 47 回	6/26・6 限	山口 雄大	ホルモン・内分泌系治療薬	1	受講するに当たり、必ず推奨テキストを使って事前に内容を確認し授業に臨むこと。また、授業のはじめに前回の講義内容について必要に応じて小テストを実施する。各自講義の要点をまとめるなど、準備を欠かさないようにすること。
第 48 回	5/12・1 限	富田 修平 松永 慎司 本間 拓二郎 徳留 健太郎 山口 雄大	薬理学実習 1	3	
第 49 回	5/12・2 限				
第 50 回	5/12・3 限				
第 51 回	5/12・4 限				
第 52 回	5/12・5 限				
第 53 回	5/12・6 限				
第 54 回	5/19・1 限	富田 修平 松永 慎司 本間 拓二郎 徳留 健太郎 山口 雄大	薬理学実習 2	3	
第 55 回	5/19・2 限				
第 56 回	5/19・3 限				
第 57 回	5/19・4 限				
第 58 回	5/19・5 限				
第 59 回	5/19・6 限				
第 60 回	6/2・1 限	富田 修平 松永 慎司 本間 拓二郎 徳留 健太郎 山口 雄大	薬理学実習 3	3	
第 61 回	6/2・2 限				
第 62 回	6/2・3 限				
第 63 回	6/2・4 限				
第 64 回	6/2・5 限				
第 65 回	6/2・6 限				
第 66 回	6/9・1 限	柳田 俊彦 富田 修平 松永 慎司 本間 拓二郎 徳留 健太郎	薬理学実習 4	3	
第 67 回	6/9・2 限				
第 68 回	6/9・3 限				
第 69 回	6/9・4 限				
第 70 回	6/9・5 限				
第 71 回	6/9・6 限				
第 72 回	6/23・1 限	富田 修平 松永 慎司 本間 拓二郎 徳留 健太郎	実習発表	3	
第 73 回	6/23・2 限				
第 74 回	6/27・2、3 限				富田 修平

成績評価方法	本コースの講義と実習の筆記試験（定期試験および小テスト）およびレポート内容にて評価する。原則、筆記試験 95%、レポート 5% で成績評価する。総合して 60% 以上の成績を合格とする。
履修上の注意	医学部規則により、原則すべての実習に参加しない限り、単位認定されない。学修態度が著しく悪い時、その授業への参加を認めないため、不合格になる場合がある。
教科書	NEW 薬理学（南江堂、第 7 版、ISBN:978-4-524-26175-8）、ラング・デール薬理学（丸善出版、原書 8 版、ISBN:978-4-621-30170-8）、カッツング薬理学エッセンシャル（丸善出版、原著 12 版、ISBN:978-4-621-30636-9）
参考文献	カッツング薬理学（丸善出版、原書 10 版、ISBN:978-4-621-08073-3）、臨床薬理学（丸善出版、原書 3 版、ISBN:978-4-621-08916-3）、エース薬理学（南山堂、ISBN:978-4-525-14071-7）、新しい薬理学（西村書店、ISBN:978-4-89013-485-4）
オフィスアワー	10:00-16:00 （会議や出張で対応できない場合があるので、急用でない限り事前にアポイントメントをとること）
教員への連絡方法	Moodle 上のメッセージ機能を使って教員に連絡すること

<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● コアカリキュラムへの対応 A 医師として求められる基本的な資質・能力、6 医療の質と安全の管理、(1) 安全性の確保、④ 医療の安全性に関する情報（薬剤等の副作用、薬害や医療過誤等の事例（経緯を含む）、やっではないこと、優れた取組事例等）を共有し、事後に役立てるための分析の重要性を説明できる。 C 医学一般、3 個体の反応、(3) 生体と薬物 の全ての項目 D 人体各器官の正常構造と機能、病態、診断、治療、に関する、各臓器・組織および疾患別に記載されている (4) 疾患 の薬物治療に関わる項目 F 診療の基本、2 基本的診療知識、(8) 薬物治療の基本原則 の全ての項目 E 全身におよぶ生理的变化、病態、診断、治療、4 免疫・アレルギー疾患、(3) 病態と疾患、⑥ アレルギー疾患の薬物治療と薬物アレルギーに関する項目 ● 該当するコンピテンス 2. 医学知識と問題対応能力（智・仁・勇）level1 3. 診療技能と患者ケア（智・仁・勇）level1 6. 医療の質と安全の管理（智・仁・勇）level1 8. 科学的探究（智）level1 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢（智・仁・勇）level2
------------	--

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	
授業科目名	原因と病態 1		
担当教員氏名	基礎：◎鰐淵 英機、鈴木 周五、梯 アンナ、藤岡 正喜、大石裕司（分子病理学）、魏民（環境リスク評価学） 臨床：富山 貴美（認知症病態学）、井上 健、石井 真美（大阪市立総合医療センター病理診断科）、奥野 高裕（南大阪病院病理診断科）		
開講年度・学期	2023	通年	曜日・時限
授業形態	混合		
科目分類			
配当年次	3年	単位数	

※水平垂直統合型授業を実施しています

【シラバス情報】

授業概要	<p>[疾病の成り立ちについて学ぶ]</p> <p>病理学とは「病（やまい）」の「理（ことわり）」を「学（まな）」ぶものであり、本コースでは主に総論では病因論、腫瘍、遺伝子異常について、各論では腎泌尿器、内分泌、中枢神経、骨軟部、小児、消化器の疾患について学習する。本コースを通じて病気が発生する基本的なメカニズムを理解し、病因に基づいた疾病の分類を把握する。医師として働き患者を治療する際には、疾病が生じるメカニズムを理解しておくことで、患者に身体に何がどのように起こっているのかを論理的に解釈し、正しい治療方法を選択することが可能となる。すなわち、病理学は基礎医学と臨床医学の懸け橋であり、病理学の知識は将来必ず役立つものとなるため、学生の間に系統的に学ぶことが望まれる。</p> <p>授業は総論と各論より構成される。総論では疾病が発生する基本原理を整理する。炎症あるいは腫瘍といった疾患の基本概念は、様々な臓器に共通しており本質的には同じであることを理解する。各論ではそれぞれの臓器ごとに、総論で学んだ病態によって具体的にどのような疾患が生じるかを学習する。また、病気が生じる際には形態的に種々の異常が起こり、各疾病に特徴的な肉眼像、組織像が観察されるため、講義にて疾患の成り立ちを学んだ後に、実習では各疾患の組織像を実際に観察することで、形態的側面から疾病の本態を理解できるよう指導を行う。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・病因に基づく疾患の分類を説明できる。 ・外因と内因について説明できる ・腫瘍の概念、成り立ちについて説明できる ・遺伝子や染色体の異常に基づく疾患について説明できる ・主要な腎、泌尿器、精巣疾患の分類、成り立ちについて説明できる ・主要な神経疾患の分類、成り立ちについて説明できる ・主要な骨軟部、小児疾患の分類、成り立ちについて説明できる ・主要な消化器疾患の分類、成り立ちについて説明できる ・主要な内分泌、皮膚疾患の分類、成り立ちについて説明できる

授業回	各回の授業内容	アクティブラーニング	事前・事後学習の内容	
第1回	1/6・4限	鰐淵 英機	講義資料事前配布	
第2回	1/6・5限			病因論
第3回	1/6・6限	大石 裕司		毒性病理学入門
第4回	1/11・4限	鈴木 周五		免疫と疾患
第5回	1/11・5限			
第6回	1/16・1限	魏 民		環境因子 (講義および実習)
第7回	1/16・2限			
第8回	1/16・3限			
第9回	1/16・4限	鰐淵 英機		腫瘍総論 I
第10回	1/16・5限			
第11回	1/17・4限	鈴木 周五		遺伝子の異常と疾患
第12回	1/17・5限			

第13回	1/20・1限				
第14回	1/20・2限	魏 民	腫瘍の病理組織実習	1	
第15回	1/20・3限				
第16回	1/24・4限	梯 アンナ	視床・下垂体・甲状腺疾患 (講義および実習)	1	講義資料事前配布
第17回	1/24・5限				
第18回	1/24・6限				
第19回	1/31・4限	魏 民	腫瘍総論Ⅱ	0	
第20回	1/31・5限				
第21回	1/31・6限	藤岡 正喜	腫瘍総論Ⅲ	0	
第22回	2/6・1限	藤岡 正喜	皮膚疾患 (講義および実習)	1	
第23回	2/6・2限				
第24回	2/6・3限				
第25回	2/13・4限	梯 アンナ	睪島疾病 (講義および実習)	1	講義資料事前配布
第26回	2/13・5限				
第27回	2/13・6限				
第28回	2/14・4限	梯 アンナ	副腎疾患 (講義および実習)	1	
第29回	2/14・5限				
第30回	2/14・6限				
第31回	3/1・4限	奥野 高裕	腎疾患Ⅰ・Ⅱ	0	
第32回	3/1・5限				
第33回	3/6・1限	奥野 高裕	腎疾患Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ	0	
第34回	3/6・2限				
第35回	3/6・3限				
第36回	3/7・1限	奥野 高裕	腎疾患の病理組織実習	1	
第37回	3/7・2限				
第38回	3/7・3限				
	3/27・2限	教員全員	前期試験		
第39回	4/5・4限	鈴木 周五	前立腺疾患 (講義および実習)	1	講義資料事前配布
第40回	4/5・5限				
第41回	4/5・6限				
第42回	4/6・1限	井上 健	骨疾患 (講義および実習)	1	
第43回	4/6・2限				
第44回	4/6・3限				
第45回	4/7・2限	梯 アンナ	口腔・唾液腺・食道疾患	0	
第46回	4/7・3限				
第47回	4/12・4限	富山 貴美	神経変性疾患	0	
第48回	4/12・5限				
第49回	4/14・2限	魏 民	胃疾患	0	講義資料事前配布
第50回	4/14・3限				
第51回	4/14・4限	魏 民	下部尿路疾患 (講義および実習)	1	
第52回	4/14・5限				
第53回	4/14・6限				
第54回	5/8・1限	井上 健	小児腫瘍	0	
第55回	5/8・2限	井上 健	乳児、小児期疾患		
第56回	5/8・3限	井上 健	小児腫瘍実習	1	
第57回	5/8・4限				
第58回	5/8・5限	藤岡 正喜	小腸・大腸疾患Ⅰ(炎症性疾患)	0	
第59回	5/8・6限				

第60回	5/10・4限					
第61回	5/10・5限	鈴木 周五	神経系疾患 I (講義および実習)	1	講義資料事前配布	
第62回	5/10・6限					
第63回	5/16・4限					
第64回	5/16・5限	鈴木 周五	神経系疾患 II (講義および実習)	1		
第65回	5/16・6限					
第66回	5/22・1限					
第67回	5/22・2限	井上 健	関節・軟部組織疾患 (講義および実習)	1		
第68回	5/22・3限					
第69回	5/23・4限					
第70回	5/23・5限	鈴木 周五	食道・胃の病理組織実習	1		
第71回	5/23・6限					
第72回	6/7・2限				講義資料事前配布	
第73回	6/7・3限	魏 民	小腸・大腸疾患 II (腫瘍)	0		
第74回	6/7・4限					
第75回	6/7・5限	藤岡 正喜	小腸・大腸疾患の病理組織 実習	1		
第76回	6/7・6限					
第77回	6/16・1限					
第78回	6/16・2限	石井 真美	精巣疾患 (講義および実習)	1		
第79回	6/16・3限					
第80回	6/21・1限				講義資料事前配布	
第81回	6/21・2限	鈴木 周五	神経系疾患 III (講義および実習)	1		
第82回	6/21・3限					
第83回	6/21・4限	鰐淵 英機	ミクロ試験 - 説明	1		
第84回	6/21・5限	奥野 高裕				
	7/3・2限	教員全員	後期試験 (筆記試験)			
	7/3・4限					
	7/3・5限	教員全員	後期試験 (実習試験)			

成績評価方法	(1) 小テストを含む試験、実習試験およびレポートによって各単元の学習達成度を測る。 (2) 原則、試験 80% および実習 20% で成績評価をする。 (3) 合格には、総合して 60%以上の成績が必要である。
履修上の注意	医学部規則により、原則すべての実習に参加しない限り、単位認定されない。
教科書	解明病理学 第3版 (医歯薬出版)
参考文献	ロビンス基礎病理学 第10版 (丸善出版)、組織病理アトラス 第6版 (文光堂)、病理組織の見方と鑑別診断—カラーアトラス 第6版 (医歯薬出版)
オフィスアワー	10:00-16:00 (会議や出張で対応できない場合があるので、急用でない限り事前にアポイントメントをとること)
教員への連絡方法	Moodle 上のメッセージ機能を使って教員に連絡すること
その他	<ul style="list-style-type: none"> ●コアカリキュラムへの対応 B-1-5), B-1-6) C-2-2), C-3-2), C-4-1), C-4-3), C-4-6) D-2-1), D-2-4), D-3-1), D-3-4), D-4-1), D-4-4), D-7-1), D-7-4), D-8-1), D-8-4), D-9-1), D-9-4), D-12-1), D-12-4) E-3-1), E-3-5), E-5-3) F-2-4) ●該当するコンピテンス 2 医学知識と問題対応能力 (智・仁・勇) 1) level 1, 4) level 1 4 コミュニケーション能力 (智・仁・勇) 3) level 1, 4) level 1 8 科学的探究 (智) 1) level 1, 2) level 1 9 生涯にわたって共に学ぶ姿勢 (智・仁・勇) 1) level 1, 2) level 1

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMABAM3128-J1
授業科目名	原因と病態 2		
担当教員氏名	◎大澤 政彦、桑江 裕子、田中 さやか（診断病理・病理病態学）		
開講年度・学期	2023	曜日・時限	その他
授業形態	混合		
科目分類			
配当年次	3年	単位数	

【シラバス情報】

授業概要	<p>本コースではヒトの病気の成り立ちを学ぶ。総論では疾病時にひきおこる変化の一般原則、特に疾病時の肉眼的、組織学的変化や細胞小器官の変化について学習する。さらに、各論では、それぞれの臓器にみられる主要な疾患について、病因、病態、肉眼・組織所見や遺伝子・分子レベルの異常について系統的に学ぶ。これらを学ぶためには、前年度に学んだ知識、特に、解剖学・組織学に関する基礎的な知識が必須である。また、病理学は、診断学という側面を持つ。病院において疾病の診断をするという重要な役割も担っている。</p> <p>その目的や意義について、癌の診断を例に学ぶ。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 細胞の正常構造と機能や細胞の種類について復習し、知識を再確認する。 2. 細胞の傷害や変性の多様性、およびその原因や意義を理解し説明できる。 3. ネクロシスとアポトーシスの違いを説明できる。 4. 炎症の定義を説明できる。 5. 炎症の分類、組織病態学的変化と経時的変化を説明できる。 6. 循環障害でみられる病態をあげ、説明できる。 7. 組織傷害後の組織修復のメカニズムについて説明できる。 8. 感覚器、循環器、肝臓、胆嚢・胆管、膵臓、乳腺、女性生殖器、呼吸器、造血器、胸腺、脾、リンパ節などに発症する主要な疾患をあげ、その病因、病態、臨床病理所見について概説できる。 9. 病理診断の目的と意義を説明できる。

授業回	各回の授業内容	アクティブラーニング	事前・事後学習の内容
第1回	1/13・1-2限 大澤 政彦 障害と適応	0	講義時間に限りがあるため重要な疾患を中心に講義を行うので、自学自習も必須である。下にあげたテキストを1つ選び、講義実習までに講義主題の範囲を読んでおくこと。 また、講義後復習も必須である。
第2回			
第3回	1/13・3限 大澤 政彦 炎症・感染	0	
第4回	1/19・1-3限 大澤 政彦 炎症・感染	0	
第5回			
第6回	1/23・1-3限 田中 さやか 炎症・感染の組織実習	1	
第7回			
第8回			
第9回	1/26・1-2限 大澤 政彦 組織修復と再生	0	
第10回			
第11回	1/26・3限 大澤 政彦 循環障害	0	
第12回	1/27・1-3限 大澤 政彦 循環障害	0	
第13回			
第14回			
第15回	2/2・1限 大澤 政彦 循環障害	0	
第16回	2/2・2限 大澤 政彦 自己免疫疾患	0	
第17回	2/2・3限 大澤 政彦 アミロイドーシス	0	
第18回	2/3・1-3限 田中 さやか 循環障害の組織実習	1	
第19回			
第20回			
第21回			

第22回	2/16・1限	大澤 政彦	サルコイドーシス	0	講義時間に限りがあるため重要な疾患を中心に講義を行うので、自学自習も必須である。下にあげたテキストを1つ選び、講義実習までに講義主題の範囲を読んでおくこと。 また、講義後復習も必須である。
第23回	2/16・2限	大澤 政彦	感覚器疾患	0	
第24回	3/1・1-3限	大澤 政彦	呼吸器疾患	0	
第25回					
第26回	3/3・1-3限	大澤 政彦	呼吸器疾患	0	
第27回					
第28回					
第29回	3/8・1-3限	田中 さやか	呼吸器疾患の組織実習	1	
第30回					
第31回	3/17・2限	大澤 政彦	試験（前期）		
第32回					
第33回	4/4・1-3限	田中 さやか	循環器疾患	0	講義時間に限りがあるため重要な疾患を中心に講義を行うので、自学自習も必須である。下にあげたテキストを1つ選び、講義実習までに講義主題の範囲を読んでおくこと。 また、講義後復習も必須である。
第34回					
第35回					
第36回	4/10・1-3限	田中 さやか	循環器疾患	0	
第37回					
第38回	4/17・4-6限	田中 さやか	婦人科疾患	0	
第39回					
第40回	4/24・1-3限	田中 さやか	循環器疾患の組織実習	1	
第41回					
第42回	5/25・1-3限	田中 さやか	婦人科疾患	0	
第43回					
第44回	5/29・1限	田中 さやか	乳腺疾患	0	
第45回					
第46回	5/29・2-3限	田中 さやか	肝疾患	0	
第47回					
第48回	6/1・1-3限	田中 さやか	肝疾患	0	
第49回					
第50回	6/6・1-3限	田中 さやか	婦人科疾患の組織実習	3	
第51回					
第52回	6/8・1限	田中 さやか	胆嚢・胆管疾患	0	
第53回					
第54回	6/8・2限	田中 さやか	膵疾患	0	
第55回					
第56回	6/15・1-3限	田中 さやか	肝胆膵疾患の組織実習	3	
第57回					
第58回	6/19・1限	田中 さやか	造血器疾患	0	
第59回					
第60回	6/19・2限	田中 さやか	リンパ球・組織球疾患	0	
第61回					
第62回	6/19・3限	田中 さやか	赤血球・凝固線溶系疾患	0	
第63回					
第64回	6/20・1限	田中 さやか	赤血球・凝固線溶系疾患	0	
第65回					
第66回	6/20・2限	田中 さやか	胸腺疾患	0	
第67回					
第68回	6/20・3限	田中 さやか	脾臓疾患	0	

第 69 回	6/22・1-3 限	田中 さやか	造血器・リンパ組織球疾患の組織実習	1	講義時間に限りがあるため重要な疾患を中心に講義を行うので、自学自習も必須である。下にあげたテキストを1つ選び、講義実習までに講義主題の範囲を読んでおくこと。 また、講義後復習も必須である。
第 70 回					
第 71 回					
第 72 回	6/30・2 限	田中 さやか	試験（後期）		

成績評価方法	(1) 試験（講義後の小テストを含む）や実習でのスケッチ、実習時の討論での発言有無によって学習達成度を測り、総合的に評価する。試験では筆記試験に加え、実習に関連した内容についての試験も行う。 (2) 評価方法（試験 80%、実習 20%） (3) 合格には、総合して 60%以上の成績が必要である。
履修上の注意	医学部規則により、原則すべての実習に参加しない限り、単位認定されない。 学修態度が著しく悪い時、その授業への参加を認めないため、不合格になる場合がある。 講義・実習中の態度も必要に応じて加点・減点する。
教科書	【講義】 Kumar V, et al. Robbins & Cotran Pathologic Basis of Disease, 10th ed. Elsevier-Saunders Strayer DS. Rubin's Pathology Clinicopathologic foundations of medicine 8th ed. Walters Kulwer 豊國伸哉ら監訳 ロビンス基礎病理学 原著 10 版 丸善出版 鈴木利光ら訳 ルービン病理学 臨床医学への基盤 西村書店 【組織実習】 赤木忠厚監修 カラーアトラス病理組織の見方と鑑別診断 第 6 版 医歯薬出版 小田義直ら編集 病理組織アトラス 第 6 版 文光堂
参考文献	特になし
オフィスアワー	金曜日 11:00～18:00（事前にアポイントメントを取る事）
教員への連絡方法	moodle 上のメッセージ機能を使って教員に連絡する事
その他	●コアカリキュラムへの対応 C-4-2), 3), 4), 5), D-5, 6, 13, 14, E-2, 4 ●該当するコンピテンスおよびマイルストーンへの対応 1. プロフェッショナルリズム（智・仁・勇）level2 2. 医学知識と問題対応能力（智・仁・勇）level1 3. 診療技能と患者ケア（智・仁・勇）level1 8. 科学的探究（智）level1 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢（智・仁・勇）level2

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMABAM3129-J1
授業科目名	細菌・真菌感染症		
担当教員氏名	【基礎】 ◎金子 幸弘、仁木 満美子、坪内 泰志、老沼 研一（細菌学） 吉川 貴仁（運動生体医学） 【臨床】 掛屋 弘、山田 康一（臨床感染制御学） 柳原 克紀（長崎大学）、宮崎 義継、阿戸 学（国立感染症研究所）		
開講年度・学期	2023	通年	曜日・時限
授業形態	混合		
科目分類			
配当年次	3年	単位数	

※水平垂直統合型授業を実施しています

【シラバス情報】

授業概要	<p>[細菌および真菌による感染症について学ぶ]</p> <p>感染症は、将来医師として必ず遭遇する疾患であり、感染症と立ち向かうには、まず敵を知ることが重要である。細菌学は、感染症の病態・診断・治療を理解するための要となる学問であり、感染症学の入り口でもある。そして、感染症は、病原体、宿主、治療の3つの因子とそれぞれの関係性を考慮しなければ理解できない。細菌学（微生物学）の対象は、前述の病原体の部分に相当する。なぜ細菌の種類によって異なる病気（つまり感染症）を起こすのか？そもそも、細菌が本当に病気を起こしているのか？これらの疑問に、基礎的視点から答えようとするのが細菌学である。つまり、感染症を理解するために細菌学を学ぶのである。進学、卒業、そして医師になり感染症の勉強をする機会は今後もあると思うが、細菌学を体系的に学ぶ機会はおそらくこの先少ないことが予想される。したがって、この学年の間に細菌学の基盤をしっかり作ってほしい。</p> <p>また、オンラインでの学習プログラム（Moodle等）、統合型講義、グループワーク、相互授業等、協動的かつ主体的に学べる体制を導入している。さらに、次学年以降の臨床的な感染症学へのスムーズな移行を目指して、カリキュラムの後半では、臨床の第一線で活躍している感染症専門医による講義を予定している。</p>
到達目標	<p>主要な到達目標は以下の通りである。個別の到達目標については、別途記載する。</p> <p>[1] 細菌・真菌の各病原体の微生物学的特徴を説明できる。 [2] 代表的な病原体を列挙し、各病原体が引き起こす感染症の病態を説明することができる。 [3] 微生物学的検査の手順と原理を説明できる。 [4] 微生物学的検査のための検体の採取、保存、運搬を適切に実施し、グラム染色を含む基本的な微生物学的検査を実施できる。 [5] 抗微生物薬を分類し、その作用機序・スペクトルについて説明できる。 [6] 主要な耐性菌とその耐性機構について説明できる。 [7] 滅菌と消毒の違い、および、それぞれの適応について説明できる。 [8] 標準予防策、感染経路別予防策について説明し、適応となる病原微生物について説明できる。 [9] 手指消毒・必要な個人防護具（PPE）の装着等の感染対策手技を正しく実施できる。 [10] シミュレータ等を用いて、感染対策を考慮したうえで、検体採取などの手技を実施できる。 [11] ワクチンの種類およびワクチンにより予防可能な疾患（VPD）を列挙できる。 [12] 感染症法の概要（類型）および届出義務について説明できる。 [13] 世界規模での感染症対策について説明できる。</p>

授業回		各回の授業内容	アクティブラーニング	事前・事後学習の内容
第1回	1/10・4限	金子 幸弘 序論、微生物学概論と細菌学の基礎 肺炎球菌と溶連菌、腸球菌 黄色ブドウ球菌	1	事前資料の閲覧、小テスト実施
第2回	1/10・5限			
第3回	1/10・6限			
第4回	1/12・1限	金子 幸弘 抗菌薬概論	1	事前資料の閲覧、小テスト実施
第5回	1/12・2限			
第6回	1/12・3限			

第7回	1/18・4限				
第8回	1/18・5限	金子 幸弘	抗菌薬各論	1	事前資料の閲覧、小テスト実施
第9回	1/18・6限				
第10回	1/30・1限	老沼 研一	インフルエンザ菌 緑膿菌とアシネトバクター 梅毒と淋菌およびクラミジア感染症	1	事前資料の閲覧、小テスト実施
第11回	1/30・2限				
第12回	1/30・3限				
第13回	1/30・4限	仁木 満美子	腸内細菌科とビブリオ科 芽胞形成菌、嫌気性菌 結核の基礎と臨床、非結核性抗酸菌症	1	事前資料の閲覧、小テスト実施
第14回	1/30・5限				
第15回	1/30・6限				
第16回	2/6・4限	阿戸 学	感染免疫とワクチン	1	事前資料の閲覧、小テスト実施
第17回	2/6・5限				
第18回	2/6・6限	金子 幸弘	振り返り	1	
第19回	2/17・1限	金子 幸弘	理解度テスト 解説	1	事前資料の閲覧、小テスト実施
第20回	2/17・2限				
第21回	2/17・3限				
第22回	2/28・1限	金子 幸弘	臨床細菌学	2	事前資料の閲覧、小テスト実施
第23回	2/28・2限				
第24回	2/28・3限				
第25回	3/8・4限	金子 幸弘	統合型グループワーク	2	事前資料の閲覧、小テスト実施
第26回	3/8・5限	掛屋 弘			
第27回	3/8・6限	吉川 貴仁			
第28回	5/24・4限	金子 幸弘 仁木 満美子	相互授業	3	事前に発表資料を提出する 事後に投票と質問に対する回答をする
第29回	5/24・5限	坪内 泰志 老沼 研一			
第30回	5/24・6限	掛屋 弘 山田 康一			
第31回	5/26・4限				
第32回	5/26・5限	金子 幸弘	相互授業説明	1	事前資料の閲覧、小テスト実施
第33回	5/26・6限				
第34回	5/29・4限	柳原 克紀	診断	1	
第35回	5/29・5限	金子 幸弘	相互授業結果発表、 総括、講評 臨床細菌学 グループワーク	2	事前資料の閲覧、小テスト実施
第36回	5/29・6限	掛屋 弘 山田 康一			
第37回	6/13・4限	金子 幸弘	細菌学実習	3	事前資料の閲覧、小テスト実施
第38回	6/13・5限	仁木 満美子			
第39回	6/13・6限	坪内 泰志 老沼 研一			
第40回	6/14・4限	金子 幸弘	細菌学実習	3	事前資料の閲覧、小テスト実施
第41回	6/14・5限	仁木 満美子			
第42回	6/14・6限	坪内 泰志 老沼 研一			
第43回	6/16・4限	金子 幸弘	細菌学実習	3	事前資料の閲覧、小テスト実施
第44回	6/16・5限	仁木 満美子			
第45回	6/16・6限	坪内 泰志 老沼 研一			
第46回	6/19・4限	金子 幸弘	細菌学実習	3	事前資料の閲覧、小テスト実施
第47回	6/19・5限	仁木 満美子			
第48回	6/19・6限	坪内 泰志 老沼 研一			

第 49 回	7/5・2 限	金子 幸弘	感染症統合型試験		
成績評価方法	<p>授業参加度（発言・発表・小テスト等）、レポート提出等により総合的に評価する。正当な理由がない欠席は原則として認めない（正当な理由のない欠席は減点対象となることがある）。</p> <p>尚、評価方法の詳細については、授業開始時に提示する。</p>				
履修上の注意	<p><input type="checkbox"/> 個別の事前学習・事後学習については講義毎に指示する。</p> <p><input type="checkbox"/> 相互授業（3年生で実施）では、班毎に使用する資料を準備すること。</p> <p><input type="checkbox"/> Moodle による中間テストと必須テスト等は期限までに終了すること（期限は講義開始時に連絡する）</p> <p><input type="checkbox"/> 知識の教授よりも、考え方の教授を中心とした講義形態をとっている。教え切れない知識は、Moodle 等にて各自で補うこと。</p> <p>臨床への知識の連結を目指している。個々の知識の積み重ねだけでなく、連続性を意識すること。講義・実習中の態度も評価対象であり、必要に応じて加点・減点する。</p> <p>特に実習中は感染病原体を扱うことから、注意事項を良く守って事故の無いように作業に集中すること。</p> <p>実習は 18 時過ぎまでかかることがあるので、必ずスケジュールを空けておくこと。</p>				
教科書	<p>【必携テキスト】</p> <p><input type="checkbox"/> 標準微生物学． 14 版（神谷 茂、錫谷達夫、松本哲哉）2021． 東京 医学書院 ISBN： 978-4-260-04331-1.</p> <p>【推奨テキスト】</p> <p><input type="checkbox"/> 戸田新細菌学． 34 版（吉田眞一、柳 雄介、吉開泰信）2013． 東京 南山堂 ISBN:978-4-525-16114-9.</p> <p><input type="checkbox"/> イラストレイテッド微生物学． 原書 3 版（Cynthia Nau Cornelissen、Bruce D. Fisher、Richard A. Harvey 著：松本 哲哉、館田 一博監訳）2014． 東京 丸善出版 ISBN:978-4-621-08675-9.</p>				
参考文献	<p>【参考文献】</p> <p><input type="checkbox"/> 染方史郎の楽しく覚えず好きになる 感じる細菌学 x 抗菌薬 2020． 東京 じほう ISBN:978-4-8407-5264-0</p> <p>【推奨ウェブサイト等】</p> <p><input type="checkbox"/> 世界保健機関： http://www.who.int/en/</p> <p><input type="checkbox"/> 米国疾病管理予防センター： http://www.cdc.gov/</p> <p><input type="checkbox"/> 厚生労働省： http://www.mhlw.go.jp/</p> <p><input type="checkbox"/> 国立感染症研究所： http://www.niid.go.jp/niid/ja/</p> <p><input type="checkbox"/> 国立感染症研究所感染症情報センター： http://www.niid.go.jp/niid/ja/from-idsc.html</p> <p><input type="checkbox"/> 大阪公立大学大学院医学研究科細菌学： http://www.med.osaka-cu.ac.jp/bacteriology/</p>				
オフィスアワー	<p>10:00-16:00</p> <p>(会議や出張で対応できない場合があるので、急用でない限り事前にアポイントメントをとること)</p>				
教員への連絡方法	<p>Moodle 上のメッセージ機能を使って教員に連絡すること</p>				
その他	<p>●コアカリキュラムへの対応</p> <p>A-6-1) ⑦, A-6-3) ②③, B-1-8) ⑩, C-3-1)-(4), C-3-2)-(4) ①, D-2, D-3, D-5, D-6, D-7, D-8, D-9, E-2</p> <p>●該当するコンピテンスおよびマイルストーンへの対応</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 医学知識と問題対応能力 (智・仁・勇) level1 3. 診療技能と患者ケア (智・仁・勇) level1 4. コミュニケーション能力 (智・仁・勇) level1 8. 科学的探究 (智) level1 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢 (智・仁・勇) level2 				

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMABAM3130-J1
授業科目名	ウイルス感染症		
担当教員氏名	【基礎】◎金子 幸弘（細菌学）、城戸 康年、綾田 稔（ウイルス学） 入谷 展弘（大阪健康安全基盤研究所） 【臨床】瀬戸 俊之（発達小児医学）、榎本 大（肝胆膵病態内科学）		
開講年度・学期	2023	通年	曜日・時限
授業形態	混合		
科目分類			
配当年次	3年	単位数	

※水平垂直統合型授業を実施しています

【シラバス情報】

授業概要	<p>ウイルス学は、細菌学や寄生虫学とともに感染症の基礎となる学問である。ウイルスは細菌とは異なり、通常の顕微鏡で観察できず、宿主に寄生しなければ自己増殖ができないという特徴のほか、宿主特異性・臓器特異性が高いといった性質がある。2020年には、COVID-19が世界を席卷し、海外で発生したウイルス性疾患も、グローバル化によって瞬く間に世界に拡大することが明らかとなった。このような中で、適切な対応ができるように、ウイルスとそれによって起こる疾患を科学的に理解し、正しい知識を身につけることが重要である。講義では、基本的なウイルスの知識を習得し、臨床で重要な個々のウイルスについて知識を習得する。また、実習においては、ウイルスの分離と増殖、定量法、ウイルス感染に伴う細胞の種々の形態変化や細胞内の構造変化の観察を実施することにより、ウイルスの特性、無菌操作、ウイルス感染症の病態、診断法に対する理解を深める。</p> <p>また、オンラインでの学習プログラム（Moodle等）、統合型グループワーク等、協調的かつ能動的に学べる体制を導入している。</p>
到達目標	<p>主要な到達目標は以下の通りである。個別の到達目標については、別途記載する。また、細菌・真菌感染症コースの到達目標も確認しておくこと。</p> <ol style="list-style-type: none"> ウイルス・プリオンの各病原体の微生物学的特徴を説明できる。 ウイルスの基本的性状（構造、ゲノムの特徴、感染・増殖様式）を理解し、説明できる。 構造と性状により、ウイルスを分類できる。 代表的な病原体を列挙し、各病原体が引き起こす感染症の病態を説明することができる。 微生物学的検査の手順と原理を説明できる。 微生物学的検査のための検体の採取、保存、運搬を適切に実施し、グラム染色を含む基本的な微生物学的検査を実施できる。 抗微生物薬を分類し、その作用機序・スペクトルについて説明できる。 標準予防策、感染経路別予防策について説明し、適応となる病原微生物について説明できる。 手指消毒・必要な個人防護具（PPE）の装着等の感染対策手技を正しく実施できる。 ワクチンの種類およびワクチンにより予防可能な疾患（VPD）を列挙できる。 感染症法の概要（類型）および届出義務について説明できる。 クラスターなどの用語を列挙し、説明することができる。 世界規模での感染症対策について説明できる。

授業回		各回の授業内容		アクティブラーニング	事前・事後学習の内容
第1回	1/6・1限	金子 幸弘	ウイルス感染症の考え方 インフルエンザ SARS、MERS	1	事後小テスト
第2回	1/6・2限				
第3回	1/6・3限				
第4回	1/13・4限	金子 幸弘	一類感染症 ヘルペス ウイルスと発癌	1	事後小テスト
第5回	1/13・5限				
第6回	1/13・6限				
第7回	1/20・4限	金子 幸弘	AIDSとATL 抗ウイルス薬	1	事後小テスト
第8回	1/20・5限				
第9回	1/20・6限				

第10回	1/23・4限		節足動物媒介性ウイルス感染症		
第11回	1/23・5限	金子 幸弘	狂犬病	1	事後小テスト
第12回	1/23・6限		アデノウイルス科、ピコルナウイルス科		
第13回	1/27・4限		麻疹、ムンプス		
第14回	1/27・5限	綾田 稔	RSウイルス、hMPウイルス	1	事後小テスト
第15回	1/27・6限		遅発性ウイルス感染症、プリオン		
第16回	2/1・4限		新興ウイルス感染症		
第17回	2/1・5限	城戸 康年	COVID-19	1	事後小テスト
第18回	2/1・6限		ワンヘルス		
第19回	2/8・4限				
第20回	2/8・5限	金子 幸弘	ワクチン	1	事後小テスト
第21回	2/8・6限				
第22回	2/17・4限	榎本 大	肝炎ウイルス	1	事後小テスト
第23回	2/17・5限				
第24回	2/17・6限	金子 幸弘	グループワーク	2	
第25回	2/28・4限		実習1：細胞培養とウイルスの感染・増殖、無菌操作についての説明		
第26回	2/28・5限	綾田 稔	単純ヘルペスウイルスI型感染細胞のCPE、プラーク形成およびHE標本の観察	2	事前資料の閲覧、事後小テスト
第27回	2/28・6限				
第28回	3/2・1限		ウイルス性胃腸炎（レオウイルス、カリシウイルス、アストロウイルス）		
第29回	3/2・2限	入谷 展弘	ウイルス感染症サーベイランス	1	事後小テスト
第30回	3/2・3限				
第31回	3/6・4限		実習2：ウイルスの増殖と定量、検査法についての説明		
第32回	3/6・5限	綾田 稔	麻疹ウイルス感染細胞のCPEおよびHE標本の観察	2	事前資料の閲覧、事後小テスト
第33回	3/6・6限				
第34回	3/7・4限				
第35回	3/7・5限	綾田 稔	麻疹と関連疾患～病態	1	事前資料の閲覧、事後小テスト
第36回	3/7・6限				
第37回	3/10・4限				
第38回	3/10・5限	金子 幸弘	統合型グループワーク：小児のウイルス性疾患	2	事前資料の閲覧、事後小テスト
第39回	3/10・6限	瀬戸 俊之			
第40回	3/31・2限	金子 幸弘	ウイルス感染症コース試験		

成績評価方法	授業参加度、レポート提出、グループワーク、試験等により総合的に評価する。正当な理由がない欠席は原則として認めない（正当な理由のない欠席は減点対象となることもある）。
履修上の注意	特に実習中は感染病原体を扱うことから、注意事項を良く守って事故の無いように作業に集中すること。実習は18時過ぎまでかかることがあるので、必ずスケジュールを空けておくこと。
教科書	【指定テキスト】 □標準微生物学．14版（神谷 茂、錫谷達夫、松本哲哉）2021．東京 医学書院 ISBN：978-4-260-04331-1.

<p>参考文献</p>	<p>【推奨テキスト】</p> <p>□戸田新細菌学．34版（吉田眞一、柳 雄介、吉開泰信）2013．東京南山堂 ISBN: 978-4-525-16114-9.</p> <p>□イラストレイテッド微生物学．原書3版（Cynthia Nau Cornelissen、Bruce D. Fisher、Richard A. Harvey 著：松本 哲哉、館田 一博監訳）2014．東京 丸善出版 ISBN: 978-4-621-08675-9</p> <p>□生命科学のためのウイルス学．（原著：VIRUSES. David R. Harper 著；下遠野邦忠、瀬谷司監訳）2015．東京 南江堂 ISBN: 978-4-524-26837-5</p> <p>□医科ウイルス学．改訂第3版（高田賢蔵 編集）2009．東京 南江堂 ISBN: 978-4-524-24022-7</p> <p>□病原細菌・ウイルス図鑑．（新居志郎、倉田毅、林英生、本田武司著・編集） ISBN-13: 978-4832982291</p> <p>【推奨ウェブサイト等】</p> <p>□世界保健機関：http://www.who.int/en/</p> <p>□米国疾病管理予防センター：http://www.cdc.gov/</p> <p>□厚生労働省：http://www.mhlw.go.jp/</p> <p>□国立感染症研究所：http://www.niid.go.jp/niid/ja/</p> <p>□国立感染症研究所感染症情報センター：http://www.niid.go.jp/niid/ja/from-idsc.html</p> <p>□大阪公立大学大学院医学研究科細菌学：http://www.med.osaka-cu.ac.jp/bacteriology/</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>10:00-16:00 （会議や出張で対応できない場合があるので、急用でない限り事前にアポイントメントをとること）</p>
<p>教員への連絡方法</p>	<p>Moodle 上のメッセージ機能を使って教員に連絡すること</p>
<p>その他</p>	<p>●コアカリキュラムへの対応 A-6-1) ⑦, A-6-3) ②③, B-1-8) ⑩, C-3-1)-(1)(2)(3), C-3-2)-(4) ①, D-2, D-3, D-5, D-6, D-7, D-8, D-9</p> <p>●該当するコンピテンス 2. 医学知識と問題対応能力（智・仁・勇）level1 3. 診療技能と患者ケア（智・仁・勇）level1 4. コミュニケーション能力（智・仁・勇）level1 8. 科学的探究（智）level1 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢（智・仁・勇）level2</p> <p>●その他 インターネットに接続可能な端末およびQRコードが読める端末を使用することがあるので準備しておくこと。ただし、目的外に使用しないこと。また、端末が準備できない場合には、事前に申し出ること。</p>

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMASOM3134-J1
授業科目名	メディカル・データ・サイエンス 2		
担当教員氏名	◎新谷歩、加葉田大志朗（医療統計学教室）		
開講年度・学期	2023	曜日・時限	その他
授業形態	混合		
科目分類			
配当年次	3年	単位数	

【シラバス情報】

授業概要	医師は臨床での診察のみならず、日常臨床の疑問に答えるための研究能力を身に着けることが求められている。臨床研究を行う際に、多くの医師の壁となっているのが医療統計学である。この授業ではデータ解析などの実習を織り交ぜ、難解な数式を使わない「使える」医療統計学を身につける。
到達目標	実際に臨床研究に用いられたデータを汎用の統計ソフトを用いて解析するプロセスを通して、データ解析の楽しさや意義を実感できる。

授業回		各回の授業内容		アクティブラーニング	事前・事後学習の内容
第1-3回	1/17・1-3限	加葉田	(座学) 講義の概要 (座学) 臨床研究とは (座学・実習) EZRの使い方	1	課題提出
第4-6回	1/25・1-3限	加葉田	(座学・実習) 記述統計・仮説検定の選び方	1	課題提出
第7-9回	2/1・1-3限	加葉田	(座学・実習) データの分布と仮説検定 多重検定の問題	1	課題提出
第10-12回	2/15・1-3限	加葉田	(座学・実習) データ収集のコツ	1	課題提出
第13-15回	4/12・1-3限	加葉田	(座学・実習) 相関・線形回帰分析	1	課題提出
第16-18回	4/19・1-3限	加葉田	(座学・実習) 疫学的指標 ロジスティック回帰分析	1	課題提出
第19-21回	4/26・1-3限	加葉田	(座学・実習) 交絡と多変量解析	1	課題提出
第22-24回	5/10・1-3限	加葉田	(座学・実習) 交互作用 (座学) 世界の医学研究	1	課題提出
第25-27回	5/17・1-3限	加葉田	(座学・実習) 生存時間解析 Cox 比例ハザード回帰分析	1	課題提出
第28-30回	5/24・1-3限	加葉田	(座学・実習) 傾向スコア解析	1	課題提出
第31回	5/31・1-3限	加葉田	試験		

成績評価方法	(1) 課題・試験によって各単元の学修達成度を測る。 (2) 試験 100% ※原則、課題の平均点数が 60% 以上の場合のみ試験を評価する。 (3) 原則、合格には、総合して 60%以上の成績が必要である。
履修上の注意	講義初回への参加を必須とし、参加しない、参加態度が悪い場合、単位認定を行わない。 事前に配布する受講手順書等の指示を遵守しない場合は単位認定を行わない。 講義は基本的にオンラインで実施する。 コンピュータ・Excel・EZR を用いた実習を行うため、事前指示に従って準備すること。
教科書	特に設けない。 指定図書と参考図書の内容に準じて行うため、講義と併せて読むことを推奨する。

参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなの医療統計（講談社）：新谷歩 ・みんなの医療統計 多変量解析編（講談社）：新谷歩
オフィスアワー	講義手順書に指定する方法で連絡を取ること。
教員への連絡方法	講義手順書に指定する方法で連絡を取ること
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● コアカリキュラムへの対応 B 社会と医学・医療 B-1 集団に対する医療 B-1-1) 統計の基礎 B-1-2) 統計手法の適用 B-1-3) 根拠に基づいた医療< EBM > ● 該当するコンピテンスおよびマイルストーンへの対応 8. 科学的探究（智） level 1 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢（智・仁・勇） level 2

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMASOM3135-J1
授業科目名	産業医学 1		
担当教員氏名	◎林 朝茂、佐藤 恭子、康 秀男、柴田 幹子（産業医学）、萩原 聡（萩原労働衛生コンサルタント事務所）、林田 純人（大阪消防振興協会）、宮田 雅典（大阪市水道局 工務部水質試験所）、久保 とし子（久保労働衛生コンサルタント事務所）、間瀬 弘幸（大阪市建設局 下水道部）、濱田 千雅（大阪ガス株式会社人事部）、金子 正利（大阪広域環境施設組合）		
開講年度・学期	2023	曜日・時限	その他
授業形態	講義		
科目分類			
配当年次	3年	単位数	

【シラバス情報】

授業概要	<p>本コースは、ヒトの健康に影響を与える自然、生活および労働環境などの要因を理解し、疾病の予防、健康保持、増進を図るための手法を学習する。</p> <p>環境保健の内容としては、主に生活環境における物理的要因、化学的要因、電離放射線などによる健康障害を学習する。生活にかかわる上水道、下水道、廃棄物処理行政や救急行政を学習する。</p> <p>産業保健の内容としては、労働環境における健康障害、労働衛生管理や産業医の職務を学習する。</p> <p>さらに、将来臨床医として必要な Evidence Based Medicine (EBM) について学習する。</p> <p>行政官や、臨床の第一線で活躍している産業医を非常勤講師として招いての講義も予定している。</p>
到達目標	<p><input type="checkbox"/> 日本における公害と地球環境が健康に及ぼす影響について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 物理的要因、化学的要因による健康障害について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 食品の安全性に関して説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 上水、下水、廃棄物の処理およびそれらの行政について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 日本の救急業務と医療機関との連携について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 臨床医として必要な Evidence Based Medicine の知識について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 産業保健について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 労働災害、長時間労働による健康障害やメンタルヘルス対策について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 産業医学におけるリスクマネジメント、職場における感染症とその対策について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 産業医の職務について説明できる。</p>

授業回		各回の授業内容		アクティブラーニング	事前・事後学習の内容
第1回	4/11・1限	林 朝茂	環境保健概論	1	Moodle から事前に配布資料を入手し、通読する。 事後に Moodle の小テストを行い、学習内容の知識を定着させる。
第2回	4/11・2限	佐藤 恭子	化学的要因による健康障害 (1)	1	
第3回	4/11・3限	康 秀男	化学的要因による健康障害 (2)	1	
第4回	4/13・1限	佐藤 恭子	産業保健概論	1	
第5回	4/13・2限	柴田 幹子	物理的要因による健康障害	1	
第6回	4/13・3限	柴田 幹子	電離放射線、その他の要因による健康障害	1	
第7回	4/18・1限	佐藤 恭子	職場における健康診断と事後措置	1	
第8回	4/18・2限	佐藤 恭子	石綿関連疾患とじん肺	1	
第9回	4/18・3限	柴田 幹子	食の安全と栄養	1	
第10回	4/18・5限	林 朝茂	EBM 概論 (1)	1	
第11回	4/18・6限	林 朝茂	EBM 概論 (2)	1	

第12回	4/20・1限	康 秀男	労働災害・業務上疾病と作業関連疾病	1	Moodle から事前に配布資料を入手し、通読する。 事後に Moodle の小テストを行い、学習内容の知識を定着させる。
第13回	4/20・2限	林 朝茂	EBM 概論 (3)	1	
第14回	4/20・3限	林 朝茂	EBM 概論 (4)	1	
第15回	4/25・1限	林 朝茂	EBM 概論 (5)	1	
第16回	4/25・2限	林 朝茂	EBM 概論 (6)	1	
第17回	4/25・3限	久保 とし子	職場巡視	1	
第18回	4/27・1限	康 秀男	長時間労働による健康障害、メンタルヘルス対策	1	
第19回	4/27・2限	萩原 聡	産業医学におけるリスクマネジメント	1	
第20回	4/27・3限	林 朝茂	EBM 概論 (7)	1	
第21回	5/16・1限	濱田 千雅	職場における感染症対策	1	
第22回	5/16・2限	金子 正利	廃棄物処理の最近の動向および環境行政 (1)	1	
第23回	5/16・3限	金子 正利	廃棄物処理の最近の動向および環境行政 (2)		
第24回	5/18・1限	佐藤 恭子	産業医業務	1	
第25回	5/18・2限	宮田 雅典	水の衛生と水道技術 (1)	1	
第26回	5/18・3限	宮田 雅典	水の衛生と水道技術 (2)		
第27回	5/23・1限	林田 純人	消防と医療の連携について	1	
第28回	5/23・2限	間瀬 弘幸	下水道行政および下水処理 (1)	1	
第29回	5/23・3限	間瀬 弘幸	下水道行政および下水処理 (2)		
第30回	7/7・6限	全員	産業医学 1 試験		

成績評価方法	<input type="checkbox"/> 小テストおよび筆記試験によって学修達成度を測る。 <input type="checkbox"/> 講義は 2/3 以上出席しなければ、筆記試験の受験資格はない。なお、30 分以上の遅刻は出席とは認めない。 <input type="checkbox"/> 講義中に配布する出席カードに、与えられた課題について回答し、提出したものを出席とする。 <input type="checkbox"/> 原則、小テストの成績 (5%)、筆記試験の成績 (95%) で成績評価をする。 <input type="checkbox"/> 合格には、総合して 60%以上の成績が必要である。
履修上の注意	講義中の態度も評価対象であり、必要に応じて加点・減点する。
教科書	必携 特になし
参考文献	1) 厚生労働統計協会：国民衛生の動向 2022/2023、2022. 8 2) 小山洋監修：シンプル衛生学公衆衛生学、南江堂、2022. 3 3) 岸玲子、古野純典、大前和幸、小泉昭夫編：NEW 予防医学・公衆衛生学、改訂第 4 版、南江堂、2018. 11 4) 中央労働災害防止協会編：労働衛生のしおり、中央労働災害防止協会、2022 5) Raymond S. Greenberg 編著：第 3 版 医学がわかる疫学 新興医学出版、2004. 4 6) 中村好一著：基礎から学ぶ楽しい疫学 第 4 版、2020. 8 7) 福原俊一著：臨床研究の道標 第 2 版 (上下巻)、2017. 7
オフィスアワー	10:00-16:00 (会議や出張で対応できない場合があるので、急用でない限り事前にアポイントメントをとること)
教員への連絡方法	Moodle 上のメッセージ機能を使って教員に連絡すること

その他

●コアカリキュラムへの対応

A -1-3)-⑤, A -2-2)-①, A -6-3)-①、⑤, A -8-1)-①～③, A -9-1)-①

B -1-2)-⑥, B -1-3)-①～③、⑦, B -1-4)-④～⑤, B -1-5)-①～⑥

B -1-6)-③～④, B -1-7)-⑤, B -1-8)-④、⑦、⑪, B -4-1)-⑬

C -3-3)-②)-①, C -5-4)-②～④, D -6-4)-③)-⑦

E -5-3)-①)-①～⑤, E -5-3)-②)-①～④, E -6-1)-①～④、⑥、⑦

E -6-2)-③、④, E -6-4)-②, F -2-3)-④

●該当するコンピテンスおよびマイルストーンへの対応

1. プロフェッショナリズム (智・仁・勇) level 1

2. 医学知識と問題対応能力 (智・仁・勇) level 2

6. 医療の質と安全の管理 (仁) level 2

8. 科学的探究 (智) level 1

9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢 (智・仁) level 1

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMASOM3138-J1
授業科目名	公衆衛生学 1		
担当教員氏名	◎福島 若葉、大藤 さとこ、加瀬 哲男、松浦 知香（公衆衛生学） 外部講師：入江 伸（医療法人 相生会）、下内 昭（結核予防会ネパール事務所）、六車 一哉（大阪社会医療センター付属病院）、喜多村 祐里（大阪市健康局）、八木 敬子（大阪市健康局）、白井 千香（枚方市保健所）、伊藤 一弥（大阪公立大学看護学部）、生野 淑子（大阪市健康局）、吉田 英樹（大阪市健康局）、大阪医療刑務所医師		
開講年度・学期	2023	前期	曜日・時限
授業形態	講義		
科目分類			
配当年次	3年	単位数	

【シラバス情報】

授業概要	本コースは、「疾病対策や保健・福祉対策の現状と仕組み」および「疫学の基礎理論」に重点を置いて講義を進める。また知識が比較的定着していると考えられる疾病について特別講義を行う。なお、感染症関連の講義については、大阪公立大学感染症医療人材養成プログラムⅠの内容と連携させている。
到達目標	<input type="checkbox"/> 公衆衛生の定義と位置づけ、および公衆衛生学における疫学の役割について説明できる。 <input type="checkbox"/> 疫学研究で用いられる主要指標や疫学研究デザインを説明できる。 <input type="checkbox"/> 疫学研究の結果の解釈に影響を与える交絡、誤分類、バイアスを説明できる。 <input type="checkbox"/> 我が国の疾病構造を理解し、疾病対策や保健・福祉対策の現状と仕組みを説明できる。 <input type="checkbox"/> 地域や集団の特性を踏まえた社会医療・福祉について説明できる。

授業回		各回の授業内容		アクティブラーニング	事前・事後学習の内容
第1回	4/4・4限	福島若葉	公衆衛生学序論	1	すべての講義について、講義毎に指示をするため、講義前にMoodleの確認が必要。
第2回	4/4・5限				
第3回	4/4・6限	福島若葉	疫学研究デザインの概要	1	
第4回	4/10・4限	福島若葉	疾病の頻度	1	
第5回	4/10・5限	入江伸	臨床試験（主に健常人試験）	1	
第6回	4/10・6限				
第7回	4/11・4限	松浦知香	相対危険と寄与危険	1	
第8回	4/11・5限	大阪医療刑務所 医師	矯正医療とその実際	1	
第9回	4/11・6限				
第10回	4/17・1限	大藤さとこ	観察研究（1）	1	
第11回	4/17・2限	下内昭	世界の結核・日本の結核 ※	1	
第12回	4/17・3限				
第13回	4/19・4限	松浦知香	予防の概念とスクリーニング	1	
第14回	4/19・5限	加瀬哲男	人獣共通感染症（基礎）※	1	
第15回	4/19・6限	加瀬哲男	新型コロナウイルス感染症対策※	1	
第16回	4/21・2限	六車一哉	あいりん地域とその社会医療の実際	1	
第17回	4/21・3限	喜多村祐里	おおさかの精神医療・保健・福祉	1	
第18回	4/24・4限	八木敬子	母子保健	1	
第19回	4/24・5限				
第20回	4/24・6限				

第21回	5/9・4限	大藤さとこ	観察研究（2）	1	
第22回	5/9・5限	白井千香	性感染症の疫学と予防 ※	1	
第23回	5/9・6限				
第24回	5/26・1限	伊藤一弥	交絡調整	1	
第25回	5/26・2限	伊藤一弥	介入研究	1	
第26回	5/26・3限	伊藤一弥	生存分析	1	
第27回	5/30・1限	生野淑子	成人・老人保健	1	
第28回	5/30・2限				
第29回	5/30・3限	大藤さとこ	交絡因子と誤分類、バイアス	1	
第30回	6/14・1限	吉田英樹	感染症サーベイランス ※	1	
第31回	6/14・2限				
第32回	6/14・3限				
第33回	6/23・4限	加瀬哲男	食品衛生※	1	
第34回	6/23・5限				
第35回	6/23・6限	大藤さとこ	介護保険	1	
第36回	7/4・2限	松浦知香	公衆衛生学考査	1	

※の講義は、大阪市立大学感染症医療人材養成プログラムの感染症基盤プログラムⅠの内容と連携させている。

成績評価方法	(1) 考査試験（100%）により評価する。 (2) 合格には60%以上の成績が必要である。
履修上の注意	講義は原則としてすべて出席すること（30分以上の遅刻は出席と認めない）。 出席は授業毎の小テストによって確認する。 学修態度が著しく不良の場合は、考査試験を受験できない場合がある。
教科書	特に定めていない。
参考文献	1. 医療情報科学研究所、公衆衛生がみえる（最新のもの）、メディックメディア 2. 中村好一著：基礎から学ぶ楽しい疫学 第3版、医学書院 3. 国試対策問題編集委員会、クエスチョン・バンク（最新のもの）、メディックメディア ※授業で使うことはないが、基礎知識として講義の前後に読んでおくことが望ましい。
オフィスアワー	10:00-16:00 （会議や出張で対応できない場合があるので、急用でない限り事前にアポイントメントをとること）
教員への連絡方法	Moodle上のメッセージ機能を使って教員に連絡すること
その他	●コアカリキュラムへの対応 A-1, A-2, A-7, A-9, B-1, B-3, B-4 ●該当するコンピテンスおよびマイルストーンへの対応 1. プロフェッショナリズム（智・仁・勇） 2) level 1 2. 医学知識と問題対応能力（智・仁・勇） 3) level 1 7. 社会における医療の実践と大阪住民の幸福に貢献する力（智・仁・勇） 1) level 1, 3) level 1 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢（智・仁） 1) level 1, 2) level 1

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMABAM3131-J1
授業科目名	原虫・寄生虫感染症		
担当教員氏名	◎城戸 康年、金子 明、中釜 悠、加賀谷 渉、Chim Chan(寄生虫学)、皆川 昇、金子修(長崎大学)、柴田 和直(国際協力機構)、飯山 達雄(国立国際医療センター)、安達 英輔(東京大学)、鹿角 契(GHIT Fund)、上村 尚人(大分大学)		
開講年度・学期	2023	曜日・時限	その他
授業形態	混合		
科目分類			
配当年次	3年	単位数	

【シラバス情報】

授業概要	国内感染症としてのみならず、Global healthの観点から熱帯感染症としての寄生虫感染症を理解することを究極的な目標とする。人体に病害を与える原虫および蠕虫(線虫、吸虫、条虫)の種類、形態学的特徴、人体への感染経路、宿主の防御反応、寄生虫の免疫回避機構、および寄生虫症における診断、治療、予防法を学ぶ。また、疾病媒介動物(昆虫、ダニ類)についてその役割および生態について学習する。特に人類にとって重要な感染症であるマラリアについてはその生物学、疫学、臨床のみならず人類との共進化の歴史、アジア・太平洋およびアフリカ等流行地における対策、撲滅への取り組みの実際、その社会・経済的意義について理解する。また、国際感染症に対する医薬品開発、世界機関などによる対策および援助などの社会的意義についても理解を深める。実習では、原虫、蠕虫の虫卵、幼虫、成虫のプレパラート標本を顕微鏡で観察し、同定を行う。また、人体症例での原虫、寄生虫による寄生状態、組織変化の特徴について理解する。
到達目標	<input type="checkbox"/> Global healthにおける寄生虫症を説明できる <input type="checkbox"/> 本邦における寄生虫症の意義を説明できる <input type="checkbox"/> 人体寄生虫分類の概略を説明できる <input type="checkbox"/> 寄生虫感染症の病態・診断・治療について説明できる <input type="checkbox"/> 寄生虫の生活史、ヒトへの感染経路および予防法について説明できる <input type="checkbox"/> 国際感染症に対する国際的な取り組み(医薬品開発、対策、援助)の現状について説明できる

授業回		各回の授業内容		アクティブラーニング	事前・事後学習の内容
第1回	5/9・1限	城戸 康年	寄生虫学 総論	1	授業までに教科書該当箇所の問題をひと通り読んでおくこと。また、学習内容を理解し、身に着けるためには復習することが重要である。
第2回	5/9・2限		腸管寄生原虫感染症	1	
第3回	5/9・3限				
第4回	5/15・1限	金子 明	マラリア	1	
第5回	5/15・2限				
第6回	5/15・3限				
第7回	5/15・4限	加賀谷 渉	線虫症	1	
第8回	5/15・5限		吸虫症		
第9回	5/15・6限		条虫症		
第10回	5/17・4限	中釜 悠	組織寄生原虫感染症	1	
第11回	5/17・5限		血液寄生原虫感染症		
第12回	5/17・6限	皆川 昇	病害動物	1	
第13回	5/22・4限	Chim Chan	Co-evolution	1	
第14回	5/22・5限	柴田 和直	国際援助機関	1	
第15回	5/22・6限	飯山 達雄	国際臨床研究	1	
第16回	5/30・4限	城戸 康年 他	実習1:線虫	2	
第17回	5/30・5限				
第18回	5/30・6限				
第19回	6/5・1限	安達 英輔	臨床寄生虫学	1	

第20回	6/5・2限	金子 修	マラリア感染の細胞生物学	1	授業までに教科書該当箇所の問題をひと通り読んでおくこと。また、学習内容を理解し、身に着けるためには復習することが重要である。
第21回	6/5・3限				
第22回	6/5・4限	城戸 康年 他	実習2：吸虫、条虫	2	
第23回	6/5・5限				
第24回	6/5・6限	城戸 康年 他	実習3：原虫	2	
第25回	6/6・4限				
第26回	6/6・5限	城戸 康年	グローバルヘルス	1	
第27回	6/6・6限				
第28回	6/12・4限	鹿角 契	医薬品アクセス	1	
第29回	6/12・5限	上村 尚人	国際医薬品開発	1	
第30回	6/12・6限	城戸 康年 他	実習4：マラリア	2	
第31回	6/13・1限				
第32回	6/13・2限		試験		
第33回	6/13・3限				
第34回	6/28・2限				

成績評価方法	出席、レポート提出および試験 (1) 到達目標の達成度について評価を行う (2) 評価方法 (定期試験 (70%)、レポート・小テスト (30%)) (3) 合格には、総合して60%以上の成績が必要である
履修上の注意	講義は2/3以上、実習は4/5以上出席しなければ、受験資格はない。 試験は筆記試験を適宜実施する。
教科書	吉田、有菌： 図説人体寄生虫学、改訂第9版 南山堂 2016
参考文献	上村ほか、寄生虫学テキスト、改訂第3版 文光堂 2010 Cook GC (ed), Manson's Tropical Diseases, 21st ed. London: Saunders, 2002 Strickland GT (ed), Hunter's Tropical Medicine and Emerging Infectious Diseases, 8th ed. Philadelphia: W.B. Saunders, 2000. Warrell DA, Gilles HM (eds). Essential Malariology, 4th ed. London:Arnold, 2002 Kathryn H. Jacobsen, Introduction to GLOBAL HEALTH 2nd ed. Jones & Bartlett Learning 2014. Richard Skolnik, Global Health 101 3rd ed. Jones & Bartlett Learning 2016.
オフィスアワー	10:00-16:00 (会議や出張で対応できない場合があるので、急用でない限り事前にアポイントメントをとること)
教員への連絡方法	Moodle上のメッセージ機能を使って教員に連絡すること
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● コアカリキュラムへの対応 全体を通じた対応は以下の通り。講義毎のコアカリキュラムへの対応については別途示す。 A-7-2) 国際医療への貢献 A-8-1) 医学研究への志向の涵養 B-1-9) 国際保健 B-1-8) 保健・医療・福祉・介護の制度 ⑩感染症法・食品衛生法の概要と届出義務を説明できる。 C-1-2)-(1) 生物の進化 C-3-1) 生体と微生物 (5) 寄生虫 C-3-2) 免疫と生体防御 -(4) 疾患と免疫 ① D 人体各器官の正常構造と機能、病態、診断、治療 <ul style="list-style-type: none"> 1 血液・造血器・リンパ系、3 皮膚系、6 呼吸器系、7 消化器系のうち寄生虫症に関連する領域。 E 全身におよぶ生理的変化、病態、診断、治療 <ul style="list-style-type: none"> 2 感染症 1) 病態、2) 診断、検査・治療の基本、4) 病態と疾患のうち寄生虫症に関連する領域 ● 該当するコンピテンス <ul style="list-style-type: none"> 2. 医学知識と問題対応能力 (智・仁・勇) level1 3. 診療技能と患者ケア (智・仁・勇) level1 4. コミュニケーション能力 (智・仁・勇) level1 7. 社会における医療の実践と大阪住民の幸福に貢献する力 (智・仁・勇) level1 8. 科学的探究 (智) level1 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢 (智・仁・勇) level2 ● その他 <p>HP: http://www.med.osaka-cu.ac.jp/protozoal-diseases/</p>

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMACLM3146-J1
授業科目名	医学英語		
担当教員氏名	Dr. Vijay Kharbas		
開講年度・学期	2023	曜日・時限	木曜
授業形態	講義		
科目分類			
配当年次	3年	単位数	

【シラバス情報】

授業概要	将来、医師もしくは研究者として必要な医学英語の基礎を学習する。 3年生を約30名ずつ、3クラスに編成する。授業時間は木曜日午後の90分
到達目標	実用医学英語の訓練を行い、将来の目標は、 1) 英文教科書・医学論文などを読む 2) 医学論文を書く 3) 国際学会などで研究を発表する 4) 国際学会などで討論をする ことである。

授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・前もって自習した内容を基に実践的な医学英語を行う。 ・英語で行われる医学部での講演会及びセミナーに参加し、評価対象とする。 <p>学生は教務委員会で指定した講演会に2回以上出席しなければならない。 医学部学務課は少なくとも1週間前には学生に掲示して通知する。 講演会に出席後1週間以内にレポート（様式：A4用紙1枚，両面可）を学務課に提出する。 レポートの評価は学年末に集計し進級判定の資料とする。 補講：評価が不合格の者は指定された日時に補講を受講しなければならない。</p>
事前・事後学習の内容	英文教科書を listening (hearing) を含めて前もって自習する。

成績評価方法	プレゼンテーション、試験などを行う。 医学部で行う講演会及びセミナー（英語）への参加義務があり、評価対象。
履修上の注意	医学部規則により、原則すべての実習に参加しない限り、単位認定されない。 学修態度が著しく悪い時、その授業への参加を認めないため、不合格になる場合がある。
教科書	教科書：The Anatomy and Physiology Learning System(4th Edition) ※英和辞典、和英辞典およびノートを持参すること。 ○ステッドマン医学大事典 ○Medical Dictionary
参考文献	特になし
オフィスアワー	9:00-17:00
教員への連絡方法	学務課 (gr-a-gakumu-med@omu. ac. jp)
その他	<ul style="list-style-type: none"> ●コアカリキュラムへの対応 A 医師として求められる基本的な資質・能力 A-2 医学知識と問題対応能力 A-2-2) 学修の在り方 ●該当するコンピテンスおよびマイルストーンへの対応 4. コミュニケーション能力 (智・仁・勇) level2 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢 (智・仁・勇) level2

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMABAM3132-J4
授業科目名	医学研究推進コース 3		
担当教員氏名	金子 幸弘（教務委員会 副委員長）他		
開講年度・学期	2023	通年	曜日・時限
授業形態	実習		
科目分類			
配当年次	3年	単位数	

【シラバス情報】

授業概要	<p>小グループ（2～10人程度）で基礎系の各教室に一定期間（約3ヶ月）所属し、担当教員の指導の下、基礎医学・社会医学に関する研究に従事する。また、担当教員の裁量により、海外での実習も可能となっている。</p> <p>【目的】</p> <p>医学部生の卒業生の多くが臨床医となることを考えれば、在学中に臨床的能力を向上させることは当然であるが、一方で、医療を支える医学の発展に寄与する能力を育むことも同程度に重要である。科学的な視点を持つことは、基礎研究者だけでなく、日常診療に当たる医師にも期待されるものであり、根拠に基づいた医療（evidence based medicine, EBM）の実践にも必須である。探究心を持つことの重要性は、医学教育モデル・コア・カリキュラムでも述べられており、課題を発見し、批判的に吟味し、自分で適切な解決方法を導き出す能力・態度を養成する医学プログラムの提供は、大学としての使命でもある。</p> <p>修業実習は、本学医学部の独自のプログラムとして、コンピテンス（卒業時まで身に付けるべき能力）の一つである「科学的探究心」の育成を目指す。また、時間をかけて基礎研究に携わる数少ない機会であり、実体験を通じて、基礎研究の魅力を味わってほしい。</p>
到達目標	研究結果をレポートとして提出する。尚、教室毎の個別の到達目標については、担当教員の指示に従うこと。

授業内容	<p>配属された教室の各担当教員の指示に従って、調査、研究、発表、レポート作成を実施する。授業内容および授業計画は、事前に各教室が準備した資料で連絡するとともに、修業実習ガイダンスで各教室の担当者が説明する。配属する教室・教員リストおよび定員は別途記す。共通項目として、文献検索法実習が別途開催される。</p> <p>8月28日（月）～11月24日（金）まで、各教室で実習を行う。授業計画は、担当教員に事前に確認すること。</p> <p>期限までにレポートを作成し、担当教員のチェックを受け、提出する。</p> <p>【海外での実習について】</p> <p>海外での実習に関しては、パスポート及びビザ等の取得、ワクチン接種等、準備が必要な場合があるため、通常よりも先にガイダンスを実施するが、遺漏のないように、海外での実習を希望する場合には事前に担当教員に確認しておくこと。</p>
事前・事後学習の内容	各担当教員の指示に従うこと。

成績評価方法	<p>実習態度、修業実習レポートを各担当教員が評価する。</p> <p>実習中の態度や参加状況により不合格となる場合がある。</p> <p>その他の評価基準は各担当教員の裁量による。</p>
履修上の注意	<p>実習先の選定に際しては、実習内容を十分に吟味すること。実習内容によっては、海外での実習や危険物の取り扱い、動物の取り扱い等を含む場合があるため、事前資料およびガイダンス説明に十分留意すること。可能な限り、事前に各担当教員に相談することが望ましい。</p>
教科書	各担当教員に確認し、必要に応じて事前に準備すること。
参考文献	各担当教員に確認し、必要に応じて事前に準備すること。
オフィスアワー	9:00-17:00
教員への連絡方法	学務課（gr-a-gakumu-med@omu.ac.jp）

その他

● コアカリキュラムへの対応

選択的な大学独自のカリキュラムの設定（「各大学における具体的な医学教育は、学修時間数の3分の2程度を目安にモデル・コア・カリキュラムを参考とし、授業科目等の設定、教育手法や履修順序等残りの3分の1程度の内容は各大学が自主的に編成するものとする。この際、卒前の研究室配属などの学生時代から医学研究への志向を涵養する教育や、医療関係者以外の方の声を聴くなどの授業方法の工夫など、各大学において特色ある取組や授業内容の改善に加え、これらの実現に向けた教（職）員の教育能力の向上を進めることが望まれる。」）

● 該当するコンピテンス

1. プロフェッショナリズム（智・仁・勇） level2
2. 医学知識と問題対応能力（智・仁・勇） level1
4. コミュニケーション能力（智・仁・勇） level2
5. チーム医療の実践（仁） level2
8. 科学的探究（智） level2
9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢（智・仁・勇） level2

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	AMACLM3144-J4
授業科目名	早期臨床実習3（医学科生による附属病院外来初診患者の院内ガイド実習）		
担当教員氏名	教務委員会		
開講年度・学期	2023	曜日・時限	
授業形態	実習		
科目分類			
配当年次	3年	単位数	

【シラバス情報】

授業概要	<p>「患者の立場で物事を考えられる医療人の育成」が求められている。高齢化社会を迎え、医療人が対応しなければならない患者の年齢層はますます上昇している。</p> <p>一方、少子化、核家族化世代である現代の医学科生は、きわめて狭いcommunityでしか社会と接していないため、高齢者や本学附属病院を受診するさまざまな社会背景を有する患者とコミュニケーションする機会がほとんどないまま医師となり、卒後に多くの問題と直面することとなる。</p> <p>そのような医学科生が卒前に、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 将来、患者の立場や目線を少しでも感じられるようになるため 2) 将来、患者とのコミュニケーションをスムーズに行えるようになるため 3) 本学の立地条件を活用した地域医療実習に取り組めるよう本実習を実施する
到達目標	附属病院を受診する初診患者に帯同することで、患者目線を体感する。

授業内容	夏季休暇中の5日間に、学年を5グループに分け、各グループ1日ずつ附属病院を受診する初診患者を対象として、受付から診察、会計までの全ての流れに付き添い、患者の視点で外来受診の流れ、病院の仕組みを体験し、外来診療における各職種の関わりを学ぶ。
事前・事後学習の内容	院内配置図を事前に把握しておくこと

成績評価方法	プログラム終了後、患者用評価表及び学生評価表の提出
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 挨拶をきちんとすること。 2. 身だしなみ 医療人を目指すものとしてふさわしい身なり（服装、頭髪、装飾品） ヒール靴、サンダル、ピアス、マニキュア、茶髪などは禁止・清潔な白衣・名札 ※身だしなみの確認が終わった学生には、名札とは別に「3年生 実習中」と書いた紙を配付する。名札の下につけ、患者及び病院関係者双方に実習を行っていることを明確にする。 3. その他 手荷物はロッカーに置いておく。携帯電話についても院内の持ち込みは禁止とする。欠席、遅刻、早退は原則として修了と認めない。
教科書	特になし
参考文献	特になし
オフィスアワー	9:00-17:00
教員への連絡方法	学務課 (gr-a-gakumu-med@omu.ac.jp)

<p>その他</p>	<p>1 年生で看護師業務、2 年生で大学病院勤務医師業務の実際を体験しており、本実習は早期臨床実習の総まとめとも位置づける。</p> <p>● コアカリキュラムへの対応</p> <p>A 医師として求められる基本的な資質・能力</p> <p>A-3 診療技能と患者ケア</p> <p>A-4 コミュニケーション能力</p> <p>A-5 チーム医療の実践</p> <p>● 該当するコンピテンスおよびマイルストーンへの対応</p> <p>1. プロフェッショナリズム (智・仁・勇) level2</p> <p>3. 診療技能と患者ケア (智・仁・勇) level1</p> <p>4. コミュニケーション能力 (智・仁・勇) level2</p> <p>5. チーム医療の実践 (仁) level2</p> <p>6. 医療の質と安全の管理 (仁) level2</p> <p>7. 社会における医療の実践と大阪住民の幸福に貢献する力 (智・仁・勇) level1</p>
------------	---